



軽種馬協会ニュース速報（号外）

2026年4月22日

軽種馬防疫協議会 事務局

(JRA 馬事部防疫課)

北海道における馬鼻肺炎神経型の発生

2026年1月に、北海道の軽種馬飼養施設において馬鼻肺炎（EHV-1）の神経型の発生が認められたため、発生した施設から管轄する家畜保健衛生所に対して家畜伝染病予防法の規定による届出がありました。家畜保健衛生所への届出により発生が判明したのは、馬鼻肺炎ワクチン未接種のサラブレッド2歳馬1頭であり、EHV-1神経型と診断されました。なお同馬は、神経症状を発症しましたが、現在は回復しております。

また現時点におきましては、上記の届出以降の発生は確認されておりませんが、今後の動向に注意が必要です。

馬鼻肺炎とは？

馬鼻肺炎は、ウマヘルペスウイルス1型（EHV-1）あるいは4型（EHV-4）の感染によって引き起こされる疾病の総称です。EHV-1感染の場合は、呼吸器症状（呼吸器型）、流産あるいは生後直死（流産型）、あるいは後駆麻痺を主徴とする運動失調（神経型）の3つの臨床型が知られています。日本では、おもに若齢馬群での呼吸器型の流行が、また、生産地では流産が散発しています。一方、欧米ではEHV-1神経型の流行がみられており、[2020年](#)および[2025年](#)には北米において、[2021年](#)および[2023年](#)にはスペインにおいて流行しており、近年世界各地で警戒されています。本国においても、[2025年の1～2月に北海道で2件](#)および[7月に北海道で1件](#)の報告がありました。

本症の予防として生ワクチンの接種が実用化されていますが、神経型を発症した馬が判明した場合には、早期の診断や他馬からの隔離が重要な防疫対応となります。なお、EHV-4は、若齢馬に呼吸器症状を引き起こしますが、流産型および神経型の原因となることは極めてまれです。

軽種馬防疫協議会